

六 郷

○ひとりだちのできる たくましい生徒の育成
○人権感覚豊かな 思いやりのある生徒の育成

学校便り 5月号
令和4年5月19日
松阪市立嬉野中学校
校長 山下 隆久

『笑顔』と『あいさつ』で 地域貢献日本一の学校に!



コロナ禍でどのように過ごしていくか、いま何をすべきか、生徒のみなさん一人ひとりが考え、日々を過ごしてくれていることに感謝しています。嬉野中学校は、自分が自分らしく生きる「ひとりだち」と、他者の様々な価値を受けとめる心を意味する「豊かさ」を自分の力にできることを目的としています。

仲間とともに、日々の活動を通して自分の可能性を広げていってほしいと思います。

登下校を見守っていただいている地域の方から「中学生があいさつを、しっかりしてくれるわあ。」と笑顔で言っていただきました。1年生「道徳」の授業で「あいさつ」について意見交換した中で「あいさつをすると、たくさんの人とつながりができるから相手の目を見て、気持ちを込めて伝わるようにしていきたい。」などの意見が出されたようです。

2年前の4月の出来事です。地域の方からお電話をいただきました。内容は「野球部が朝練の時に、しっかり気持ちの良いあいさつをしてくれて、私たち老夫婦は、気持ちの良い元気がでた一日のスタートをいただきました。」というものでした。この話を聞いた私は、嬉野中学校の生徒の頑張りや、嬉野中学校の生徒の「笑顔」や「あいさつ」は、嬉野地域の方々に元気をプレゼントしているのだと改めて気づかされました。

この時に、「『笑顔』と『あいさつ』で地域貢献日本一の学校にする!」ということが、嬉野中学校長としての私の夢になりました。

生徒のみなさん、嬉野中学校にいて良かったと思える学校を一緒に築いていきましょう。保護者の皆様そして地域の方々、ご支援ご協力をよろしく願います。

HPアドレス <http://www.ureshino-matsusaka.com/ureshino/>



啐啄同機(そったくどうき)

右の「啐啄同機」と刻まれた碑が中学校内のある場所にあります。ご存じですか? 「啐啄同機」とは? 親鳥が卵を温めていると、卵の中の雛が卵の殻をコツコツとつつく音が聞こえ、その音を親鳥が感じとり外側からコツコツ殻を叩く、そして雛が誕生するのだそうです。これは、雛鳥と親鳥との双方の心が通じ合ったことを意味しています。このとき雛の心に大きな望みが生まれ、少しの迷いもなく雛鳥が誕生できると言われています。



機を得て両者が相応することという意味です。

みんなの心を合わせて学びをつくっていきましょう、嬉野中学校教育の原点となる考え方が、この碑や条幅の言葉に刻まれています。